



ゆづりは

堺市立図書館だより

第4巻 第2号 (通巻12号)
 発行日 平成21年 9月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

山の動く日きたる

～「日本女性会議」記念イベントを開催～

きたる 10月30日(金)から11月1日(日)にかけて、堺市において「日本女性会議さかい2009」が行われます。これは、女性の社会的地位の向上や男女共同参画社会の実現をめざし、毎年行われている全国的な会議で、期間中は堺市内の各地で講演会やシンポジウム、交流会などが開かれます。これを記念し、図書館でもさまざまな催しを予定していますので、ご紹介いたします。



「日本女性会議」の詳細は館内ポスターやホームページなどをご覧ください。
<http://2009sakai.jp/index.htm>

●記念講演会「与謝野晶子・西から東へ 谷崎潤一郎・東から西へ ～誰も言わなかった二人の共通点」

10月25日(日)午後1時30分から3時30分まで、南図書館で講演会を行います。講師は武庫川女子大学教授たつみ都志氏。申込は9月25日(金)午前10時より受付開始。電話の場合は南図書館(294-0123)、ご来館の場合は市内の各図書館で受付します。先着300人。参加は無料です。お気軽にご参加ください! 詳細は館内ポスターやチラシで。

●与謝野晶子資料展・パンフレット「山の動く日きたる」

10月21日(水)から11月1日(日)まで、中央図書館1階ロビーにおいて、女性の自立を求めた晶子の思想に関わる作品を中心に、関係資料を展示します。晶子は詩や短歌だけでなく、実は、社会・政治・教育などさまざまな分野に対しての評論も多く書き残しています。今回は、当館で所蔵している『人及び女として』(1916年発行)など、生涯で発行された評論集15タイトルをすべて揃えて展示します。入場無料。また、展示資料パンフレットも無料配布します。



「みだれ髪」表紙

●ブックフェア・ブックリスト

10月1日から31日まで、中央(こども室)、中、東、西、南、北、美原の各図書館および堺市駅前分館で、「日本女性会議」にちなんださまざまなテーマでブックフェアを行います。また展示資料を中心にしたブックリストも配布します。どうぞご利用ください。

目次

山の動く日きたる～「日本女性会議」記念イベントを開催～ …1

シリーズ堺の〇〇「堺の富十郎」 …2

わたしの“とっておきの一冊”
～その11…2

資料(点検)整理期間のおしらせ …2

中学生向きブックリスト完成 …2

堺かるた いろはの「ち」 …3

この本で解決!
～いろいろコスチューム～ …3

司書のイチ押し!
『覆面作家は二人いる』 …4

今週のこの本に注目! …4

堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り葉の ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



シリーズ堺の〇〇 「堺の富十郎」



上は天保6年(1835)、「契情箱伝授(けいせいはいこでんじゅ)」で「娘みたき」を演じる、富十郎襲名直後の役者絵(当館所蔵)。

幕末期上方歌舞伎界を代表する女形に、二代目中村富十郎がいます。彼は「難波の太夫」とも称せられ、「無類」という当時の役者評判記の位付において最高位にのぼりつめるほどの人気でした。

富十郎は難波新地に広大な屋敷をもち、大変ぜいたくな暮らしをしていたため、天保改革の芸能取り締まりにより、大坂から追放され、堺に住むことになりました。戎之町大道において小間物屋を開業し、大変繁盛しましたが、このまま富十郎を埋もれさせることを惜しんだ堺の町の世話役は、本人を説得して堺の芝居小屋で舞台復帰させました。その後、堺を拠点に富十郎は京や伊勢、名古屋、そして江戸で活躍、以前にも増して評判を得ましたが、安政2年(1855)に堺において70歳で没しました。

当館は当時の役者絵、芝居番付、堺に2ヶ所あった芝居小屋の間取りが描かれた絵図などを所蔵しています。富十郎に興味のある方は、『近世堺と歌舞伎』(斉藤利彦/著 大阪公立大学共同出版会)などをご参照ください。

わたしの“とっておきの一冊”
~その11

今回は、図書館に体験学習や研修に来られた方から、とっておきを教えてもらいました。新旧いろいろ、多彩なおすすめです。

◆『坊っちゃん』夏目漱石

坊っちゃんが、根の腐っている赤シャツやたぬきを豪快に殴り飛ばすところがスカッとするから(10代)

◆『探偵ガリレオ』東野圭吾

一話一話完結するようになっており、読んでいるほうも無理なく読むことができる。事件のトリックを必ず見破り解決してくれるのは読者にとって“実におもしろい”!(30代)

◆『僕は勉強ができない』山田詠美

高校生の時田秀美くんは、今どきの17才。「勉強はできないけど、女の子にはモテる」と言う秀美くんは、あっけらかんとしていそうで、実は青春の悩みに真剣に向き合っていたりします。痛快な秀美くんの活躍が詰まった短編集です(30代)

◆『利休にたずねよ』山本兼一

堺商人でありながら、類い稀な美意識で「侘び茶」を完成させた千利休の人となり、家康や織部など複数の人々の視点から多面的に描かれています。タイトルの秀吉の問いは、そのまま私にとっての謎となり、ラストの切腹の場面まで一気に読み終わりました。そして、もっと利休のことが知りたくなりました。ミステリー風の展開と美しく端正な文章。小説の面白さを堪能できる作品だと思います(40代)

資料(点検)整理期間のお知らせ

資料の点検・整理作業を実施するため、
初芝分館は 10月1日(木)~10月2日(金)
西図書館は 10月5日(月)~10月9日(金)
東百舌鳥分館は 10月14日(水)~10月16日(金)
中図書館は 10月19日(月)~10月23日(金)
中央図書館は 11月30日(月)~12月4日(金)
堺市駅前分館は 12月9日(水)~12月11日(金)
の間、休館します。

市内の他の図書館は通常通り開館しております。

また、中央図書館の書庫については、9月15日(火)~11月20日(金)の間、分野ごとに点検・整理作業を順次実施しています。通常通り開館しますが、期間中、点検対象資料によってはご提供できない場合があります。

皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

資料(点検)整理期間は「蔵書点検」を行っています。蔵書点検とは、お店でいうと「棚卸し(たなおろし)」作業にあたります。検索をしたときに表示されている場所に、資料が実際に並んでいるかどうかを確認するために、館内にある資料を一冊一冊点検していく作業です。

今年度の各館の資料(点検)整理期間の予定

平成22年人権ふれあいセンター図書ホール	1月	20~22日
梅分館	1月	27~29日
美木多分館	1月	27~29日
北図書館	2月	1~5日
美原図書館	2月	15~22日

ミニ・ニュース 中学生向きブックリスト「ページをひらけば…」完成

中学生のみなさんに

オススメの本のリストができました。9月中旬から各館カウンターで配布を開始!

堺かるた - いろはの「ち」

「ちえ文殊 行基生まれた 家原寺」

家原寺は704年（慶雲元年）、行基が建立した寺です。「知恵の文殊さん」と呼ばれ、シーズンになると受験生でにぎわい、本堂が「合格祈願」と書かれたハンカチで埋め尽くされる風景が、冬の風物詩となっています。

<参考文献>「むかしの堺」（はとぶえ会）、「大阪府の歴史散歩 下」（山川出版社）



ちえ文殊
もんじゅ
行基
ぎょうき
生まれた
えばらでら
家原寺

この本で解決！

～いろいろコスチューム～

子どもに頼まれた…どうやって作るのか知りたい…でも近くの店には売ってないし、誰も持ってないし、謎は深まるばかり。実は、この本にちゃんと載っていました！

「烏帽子(えぼし)」の作り方が知りたい。

『完全図解学級演劇大事典』（東陽出版）の「昔の帽子をつくろう」というページに3種類の烏帽子の作り方が載っています。ただし、これは学校演劇用の簡便な作りのものなので、本格的な烏帽子作成のための資料としては、『図説日本文化の歴史第5巻 鎌倉』（小学館）に載っている、「折烏帽子（おりえぼし）」の製作過程（p.143）が参考になると思います。また『時代装束』（京都書院）、『イラストでみる日本史博物館第2巻 服飾・生活編』（柏書房）、『日本史モノ事典』（平凡社）に烏帽子の写真やイラストが掲載されているので同様に参考にしてください。さらに時代をさかのぼった時代衣装では、『「古墳・飛鳥人になりきってみよう」実践報告書』（大阪府立近つ飛鳥博物館）に、飛鳥人の帽子の型紙が収録されています。

子どもの変身用のマントを作りたい。

『ゆかいな仮装をたのしむ本』（メディアファクトリー）、『お遊戯会の服』（ブティック社）には「王様のマント」の作り方が、『可愛いおゆうぎ会の服』（ブティック社）には「魔女のマント」の作り方が載っています。「魔女のマント」は型紙も付いています。洋裁をされる方には使いやすいですね。



ハロウィンの衣装を作りたい。



ハロウィン（Halloween）は、キリスト教（古くは古代ケルト人）の宗教行事で、万聖節の前夜祭として、10月31日に行われます。その夜、子どもたちは魔女やお化けの姿に変装して、カボチャの中身をくりぬいて作ったランタンを手に、近所の家を訪ね歩きます。

ハロウィンの衣装の作り方は、『へんしん衣装』（大月書店）に、魔女、がいこつ、カボチャマンなど、6種類の衣装の作り方が載っています。また『30分でできるうきうきコスチューム』（フレール館）、『つくってみようやってみよう パーティをひらこう』（岩崎書店）にもいくつか紹介されています。ハロウィンについては「図書館で解決!?第8号」（図書館で発行・配布。HPにも掲載）でも特集をしています。ハロウィンの衣装だけでなく、ハロウィンの由来や絵本も紹介していますので、ぜひご覧ください。

HP図書館で解決!? <http://www.lib-sakai.jp/link/index2.htm>

「袈裟(けさ)」の作り方が知りたい。

「袈裟」は、長方形の形をした僧侶の衣服で、小さな長方形の衣片を水田の形に見立てて規則的に縫い合せたものです。袈裟のサイズは、「七条袈裟（しちじょうげさ）」と呼ばれるものでは、横約2メートル、縦1.2メートルの大きさがあります。『袈裟のはなし』（法蔵館）、『袈裟の研究』（大法輪閣）に詳しい作り方が載っています。

司書のイチ押し!

『覆面作家は二人いる』

北村 薫／著 角川書店

第141回の直木賞に北村薫氏の『鷲と雪』が選ばれたのが、この夏の初め。

推理作家としてよく知られた北村氏には、1989年のデビュー以来いくつもの作品がある。今回、初めて北村作品を読もうかな、と思われた方には『覆面作家は二人いる』を薦めたい。

借りてきたネコとサーベルタイガー、という相反する（言葉遣いから服の好みまで全く違う）性格を備えた“お嬢様”新人推理作家と、担当編集者のコンビが謎解きをする連作集だから、長編が苦手な方もとつきやすいのでは？

短いのはモノ足りない、という方は『覆面作家の愛の歌』『覆面作家の夢の家』と三部作になっているので、ご安心あれ。二人の職業柄、本を作る現場の臨場感もあり、シリーズを通して実在の推理作家らしき人物が何人か見え隠れするのもご一興。

何より、デビュー当時の北村氏自身が覆面作家だったのだ。年齢、経歴はもとより、性別まで全く発表していなかった作者が、その覆面をはずした最初の作品の主人公が“覆面作家”ということになる。もっとも、作者が“お嬢様”だと早とちりをせぬよう、ご用心、ご用心。➤

ミニ・ニュース 今週のこの本に注目!

中央図書館の一般室返却カウンター前に「今週のこの本に注目!」というコーナー



をつくり、週替わりでいろんな本を紹介しています。写真はだんじりの本を紹介したときのものです。

もちろん、ミステリの醍醐味はたっぷり味わえる。日常のふとした「はてな」から、ミステリの謎解きにつながっていく鮮やかさときたら……（詳しく書くとネタバラシになるので、ここでストップ!）。他のシリーズに比べて、古今東西の文学作品などからの引用が少なめだから、これも「はじめまして」にはいいんじゃないかな? 北村ワールドをもっと楽しみたい、もっと知りたいという方には『静かなる謎北村薫』（宝島社）なんてのもある。よかったら、一度お試しを。

それにしても、作中に出てくる「江東区在住」の「宮前先生」って、宮部みゆきさんですよ?!

なお『鷲と雪』は「ベッキーさん」シリーズの最終巻にあたる。一作目の『街の灯』（巻末に著者インタビューつき）、さらに『玻璃の天』と順に読んでいくと、三倍楽しめる、ハズ。（F）

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331